



百屋
 繪本胡蝶夢


特
 八遠 3
 960
 3



門遠 960 8

本清

繪本胡蝶夢卷之三

橋生堂年深元月作

八百屋久多親子音徳院寺落

舟油屋惣之流途中根籍の徳

財ハ善人を活し又善人を害すハ皆財の力を

活す事を知りて人を害する事志すは老子云

曰慾多りて心成滅し財多りて心成明を前ハ

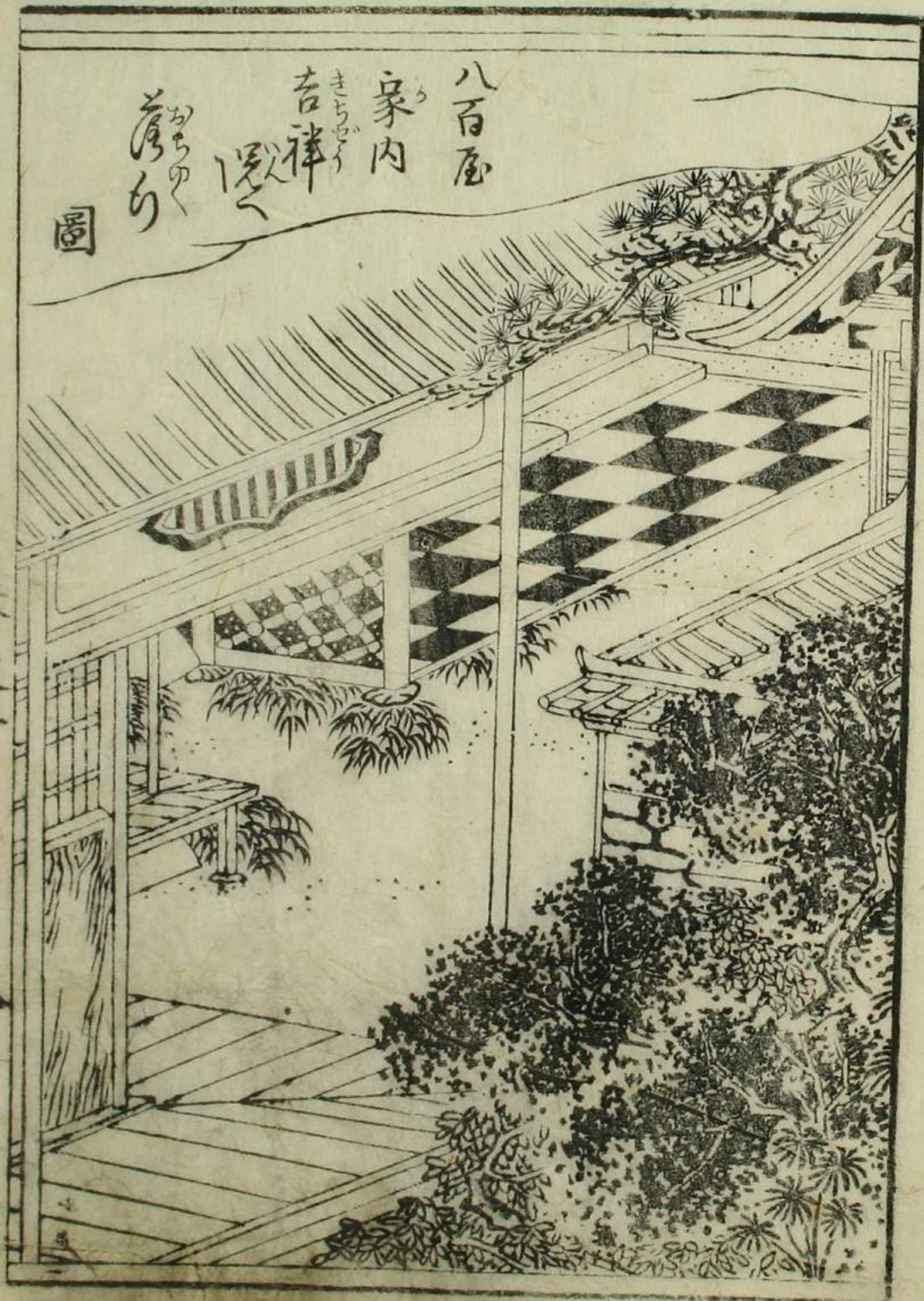
と久多流今曉言提存古律院ハ後集集

上人ハ委細を流若し小引集集元ハとり敢て先



酒飯を乞ふ一宿入しと氣を添へしと別處
 引しめらるる未と妻を此の清に知とて心
 離し小脳煩怎麼おもて箇も造化低りし属
 かあ悲しみのあまそ父も不肖今ハたや只燒盡
 了脱得赤條く小ぬも且暮の菊煙も
 いふく惣を清し請入這三十兩り金を貸とせざ
 ねい今さうと詮すべし何ら妻も高儀はしと益
 慾念いふも其日も卯の時不寐の妻娘お救
 法光小洲の寺小尋の来し不久を清に
 一

上人とお遊ひ給ひ今曉の變火途中着ある事
 くと悦び限りし妻子ハ吻と吐息つきを
 漂迷来る道條とく油屋お清遊来る其を
 祖房へ住をべしと武を兼より尸属なるゆ
 山入りしは後しあとしらくさまわしけし
 何と初し氣味とて新しき退きと
 とあしるる小おと敷團しとたのし
 一人ハおとるべしと清を社立ゆわんと
 沙女執りしおとるおとるおとるを
 一





しくるを喜ぶ小と思ふ人れはと人這久き居り
 あらうべし上人熟くとも久きあり候お跡をいんく
 鳴呼 穢賤のふあやと歩観ども居りししが
 上人まぬのそのお望ひりるむりし唐の那某
 つる人あり二人ともお真率朴直の人とて蘭畦
 作りて渡世とましお或時畦の中より一つの籠を
 得たり開てく戸もい候なる黄金ありしお
 妻ハ大お怪んく是天に賚ることあり入とせしお
 史のいさく天より物を生むすとつても播種

をいさか子今杖か作ぢ子播すしくかきく金と
 けくハ不詳なり今あり山人の的力作して
 食ハ餓るまともけく寒のうま本もれく日と
 しく思ひしとらまあし今程の宿有あり
 那程多程の金を得人あてて本の不埋たり
 とゆ隣あり人是をととんとあしヨリ
 搜も一物とあしとに後かの夫婦の人を
 小稔をけく富もふありしとあり人今足下と
 又由縁あり人の財をけく家を復起せし



上人
久き
異見
の
居

卷之三

和七をい得てきて吉之廓小窓暮
悪傍辯長多をい武系内通

却説久き傍ハ巾口の普清より九月に宮中とぬく
急をりちちと小過おゆ理もあま悦ぶ事浪下し
茲小也田尻内小吉之廓といく漢乃彌子殿和朝
業平と叫做美少年あり江州安井源盛清
といふ五人の二男ありしが遠源盛親日蓮經宗信
仰そのふしと二人の子あり兄を家督と
弟ハお家さ守べしとの願ありしりた家室并

徳親親とあ集り許多生をあら子あ何
何しをも境の同胞的這件ハ延引物良しと
諫をももやりと聴了かく俗諺おれ子波門
入も九族天不生お筒の大切徳も甚底不足
ク、ゆくと見ふ江戸駒込吉徳院日峯上人に
ふ思とおおれずばしと登や系りせもい上人も言
伶俐おめて終ひて只管教戒終ひし小く師
乃道守守と適も後ハ善出家もあし人
と束ねしと我おがとさしりさも八百屋久き書

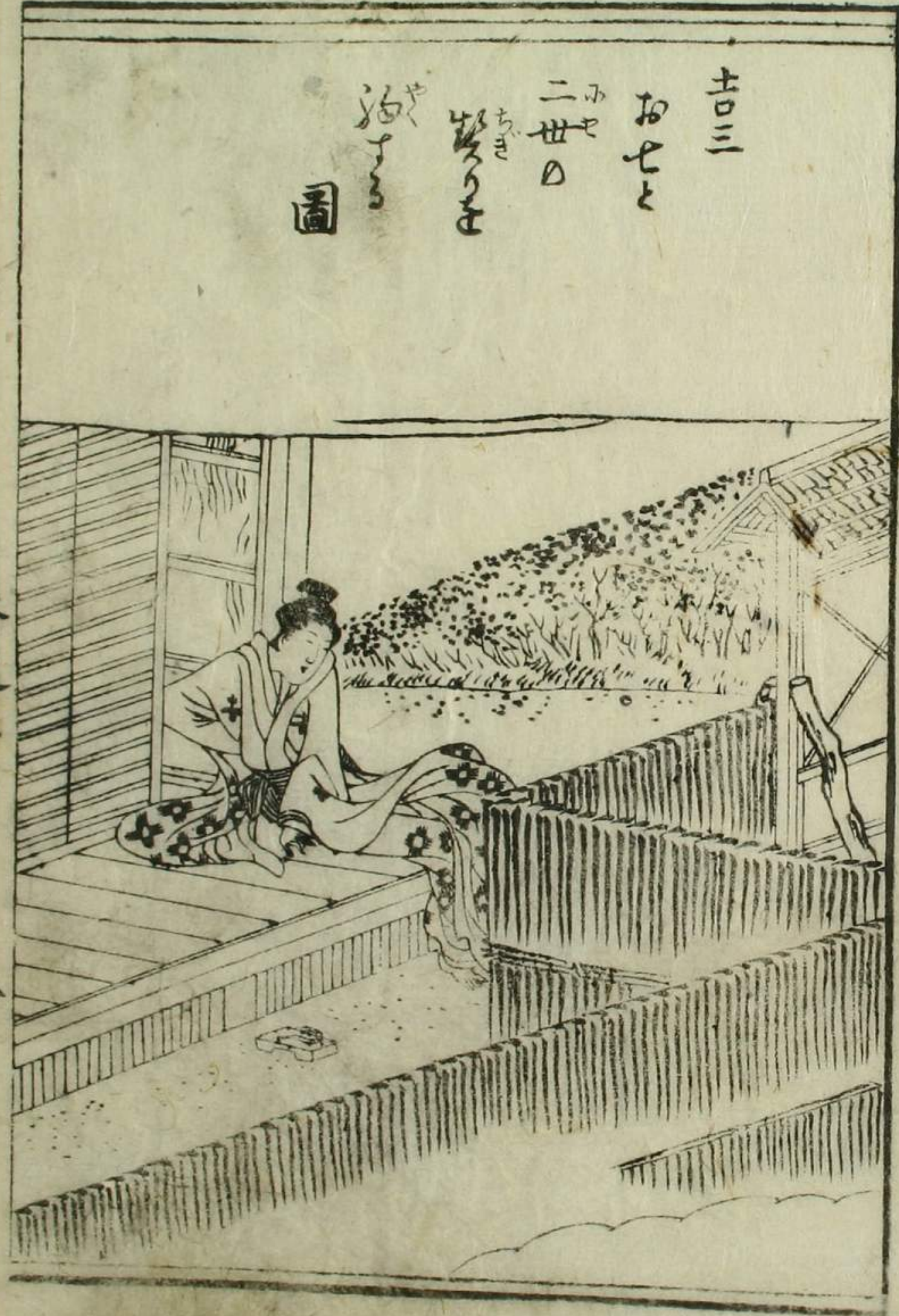
七言 了 懸 想 了 另



卷之三

家内ハ不圖ト火變子おあひを得候不所をトモ普
 請事物ヲテいとくし居るつり久き家内の
 そのけきと即と親ト分説国娘お七ハなごり
 優不窳ある風姿ト憶浮萍あり小娘トくいと
 比を戯れんと挑むといへとも吉之郎ハあふ本おぬの
 望むはむいせし心擲すべうもあくこれと幸風誘
 と楊柳動の誘を思本ありぬ所のおと徳かた免
 或時吉之郎ト書候不茶を挽居たりりる小たご
 所帯ハ物さびしと不寂くとく一職を信し居る

りるがお七 這光景を觀る小益世ハ珍しし死人も
 りつゝそのかおぬ形をわづらふと自他ノ國と
 りと不思もなきが親を歩脈免惚とてあり
 り婢女の杖ハ何心なく棄けを這 這誤をみてお
 本の人目とあり一兼ていお七の意 莫如い後
 々の媒酌セバヤとそとと一促しとお七の肩を擲し
 くとくお七ハとんとお七の意 誰的ふと
 りよとなきと目を悟し三人影を面對しと定分
 屬ハ杖ハお七トりお七トを扯込るるとが俵へお



卷之三
 四

嬌婦も復頃日乃風活ハ油屋何某の方へ嫁属後
 とまきくさむバツも二人あかハ新小羅手把さる小
 河くやまの来儂齊こまきの土鄙的小羈され後
 あとハさこめく苗屋の戯もあかハさるあまのま
 ー諺あ死人の唇齒又あまづべあふ何さすや善く
 ぬく後へやとあ宿えりるあぞおせハ言句乃唯ま
 ぬく後ぬる涙をくくもく不許何とのあまいん
 倏忽軀を跳ししく應比井戸へ飛入んはさしらる
 在こ大小慌忙あゝるあその火を索りるあま

毒が形いの恟さる時ハくく何んあハああてのりくご
 郎の白怪ハ毒が林ふくくくくくくくくくくくくくく
 只管ぬりく死への後と聞ひらるあまをさるも今ハ
 鐵石の拾もくくけおせがゆわ切あふ甚低や儂取
 岩あまあ人儻這の現あまあバあまの今死るを
 ぬくす我と一あ死あは田長とさし後とあまを
 ちあせ抱まらぬあまをあ死るあゝとあま後
 世すくも唄もくくあまあまあまあまあまあま
 茲よと田原の髻先頭不長長とつる醜頭陀あり敢あ

